

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（学術）	氏名	Mahjoub Zirak
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
<p>Phonetic and Phonological Changes in Obsolescing Languages: A Case Study of the Khorasani Variety of Kurmanji Language (危機言語の音声・音韻変化-ホラーサーンのクルマンジー語の事例的研究-)</p>			
論文審査担当者			
主査	教授	Peter M. Skaer	
審査委員	教授	安仁屋 宗正	
審査委員	准教授	谷本 秀康	
審査委員	教授	吉村 慎太郎	
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、イラン北東部に位置するホラーサーン州に居住するクルド (Kurd) 系民族の言語であり、話者の減少と共に消滅の危機に瀕しているクルマンジー (Kurmanji) 語に関して、音声学・音韻論的分析を行っている研究である。そのなかで、国語であり優勢言語であるペルシャ語の影響によって若い世代のクルマンジー語話者の間に音声・音韻変化が発生していることを、主に子音の有気音/無気音の区別、有声開始時間 (Voice Onset Time) の変化及び子音連結縮小の点から明らかにしている。</p> <p>第一章では、危機言語を対象とした殆どの先行研究が緩やかな変化や言語接触による絶滅状況を分析しており、優勢言語への集中/収束 (convergence) 或いは分離 (divergence) によって、母語の音声・音韻的構造に完全変化或いは部分的変化が認められる点を指摘している。続く第二章では、ホラーサーン州のクルマンジー語の音声学・音韻論的分析の展開に先立ち、クルド言語研究の歴史及びクルマンジー語の歴史と背景を検討したうえで、音声・音韻分析の核となる、頭子音の有気音/無気音の区別、有声開始時間 (Voice Onset Time) の変化、そして子音連結縮小に関する分析がクルマンジー語話者の音声録音データに基づいて実施されていることを説明している。第三章では、クルマンジー語話者男性10人を Generation 1 (55-65歳) 5人と Generation 2 (30-35歳) 5人に分類し、頭子音の有声開始時間の相違と有気音/無気音の区別に関する分析を行い、いかに優勢言語であるペルシャ語の影響が Generation 2 の話者に浸透しているかを実証している。さらに、第四章では、Generation 2 の間で子音連結 /xw/ が /w/ に縮小される現象が見られ、ペルシャ語の音節構造に近似していることを明らかにしている。そして、第五章ではクルマンジー語の音変化バリエーションに関して社会音声学の視点から社会的要因と音声学的バリエーションとの関連について考察している。クルマンジー語話者の子供は、社会生活を営む上で語頭子音の有声/無声、子音連結の /xwa/, /xa/, /xo/ 等のバリエーションを習得しなければならないと述べている。最</p>			

後に第六章では、完全変化、異音の喪失、音素下位レベルのバリエーション等は全て危機言語に見られる特徴であると結論づけている。また、Generation 2 のクルマンジー語話者は、Generation 1 の音声・音韻パターンをある程度保持しているものの、子音連結縮小にみられるように、語頭における摩擦音+わたり音の子音連続が Generation 2 で失われつつあるのは事実であり、優勢言語であるペルシャ語の音節構造が浸透していると指摘している。

申請者は、網羅的な音声学・音韻論的分析、民俗学的及び社会学的研究を実施することによって、危機に瀕した言語の世代間の社会言語学的相違や音声学的、音韻論的バリエーションに関してより一層の深い理解につながる旨、全体として結論づけている。

申請者の学位論文は、音声学・音韻論研究分野だけでなく、危機言語研究、また社会音声学研究にまで幅広く貢献していると言える。マジューブ ジラク氏は、当該分野の音響音声学に関する専門知識だけでなく、危機言語に関する先行研究分析、歴史・背景等に関して十分な知識と分析能力を有しており、今後の危機言語研究の発展に寄与することが大いに期待できる。

以上、審査の結果、本学位論文の申請者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。